

忍城の地形と築城以前の様相

15世紀後半、成田氏によって築かれた忍城は、永正6年（1509）に忍城を訪れた連歌師宗長が『宗長日記』（東路のつと）に「水郷也、館のめぐり四方沼幾重ともなく蘆の霜がれ、廿餘町四方にかけて、水鳥おほく見えわたりたるさまなるべし」と書き記したように、沼地の中に築かれた城でした。

高地、あるいは自然堤防を巧みに結び付けて築かれていたようです。

内行田付近を除き、忍城とその周辺地域はこのような沼地や低湿地だったので、城が築かれるまでは、人々が生活できるような場所ではなかったと最近まで考えられていました。ところが、郷土博物館建設の際に実施した本丸部分の発掘調査で、忍城築城以前の古墳時代（6世紀）の住居跡と、平安時代（9、10世紀）の住居跡がそれぞれ1軒発見され、忍城築城以前にもこの地域で人々が生活を営んでいたことが明らかになりました。その後、忍中学校体育館建設の際に実施した二の丸部分の発掘調査で、古墳時代と思われる土器が、本丸郵便局南東の個人住宅建設の際に実施した武器役所付近の発掘調査で、奈良時代（8世紀）の貯蔵穴と柱穴がそれぞれ発見され、忍城本丸周辺では、古墳時代以降平安時代まで、断続的に人々が生活をしてきたことが明確になりました。また、同時に忍城は、沼地の中でも古くから人々が生活を営んできた安定した場所を選んで、城の中心部分を築いていたことも明らかになりました。

あたり、扇状地末端部特有の伏流水のわき水が多く見られます。忍城の中心部分は、こうした伏流水が寄り集まる広大な沼地や低湿地に存在していました。忍城は沼地に広がる深田を天然の要害とし、その中に鳥状に点在していた微



発掘調査で出土した奈良時代の土器と貯蔵穴

（文化財保護課 中島洋一）

こぜにが with フラベス ちゃん行く!

観光情報館「ぶらっと♪ぎょうだ」

今月は、4月にオープンしたばかりの観光情報館「ぶらっと♪ぎょうだ」を紹介いたします。商工センター1階に開設した「ぶらっと♪ぎょうだ」は、行田の観光拠点となる施設で、市の観光情報を提供したり、市内の特産品やお土産を販売したりしているよ。館内には60種類以上の商品がぶらっと並んでいて、映画「のぼうの城」に関連したものや行田在来青大豆を使用したものもあるんだ。休憩所もあるから、市内巡りをしたときに、ちょっと休憩するには最高の場所だよ。行田を訪れた方だけでなく、市民のみんなも十分に楽しめるから、お友達や家族と「ぶらっと」立ち寄ってね♪

今月の表紙

忍城を舞台にした映画「のぼうの城」の公開日が11月2日に決定しました。映画公開に向けた各種イベントの開催や関連商品の開発、「忍城おもてなし甲冑隊」によるPR活動など、行田の魅力を全国に発信し、活気と活力に満ちた「にぎわい」のあるまちづくりを進めていきます。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

